平成３０年１月

**消 防 署 日 新 出 張 所 庁 舎 建 替 事 業**

　苫小牧市消防本部

**はじめに**

　総務省消防庁では、平成１４年に防災拠点となる公共施設等の耐震改修整備の推進通知により建替計画や耐震改修の検討を各消防本部に促し、東日本大震災において昭和５６年以前の旧耐震基準で設計された建物に被害が多かったことから、該当する建物について早急な整備を求めております。

消防施設は、大規模地震発生時には災害対応拠点として機能を求められます。地震により被害を受けた場合、初期の災害対応等に支障をきたし、多くの犠牲者を生じさせるばかりでなく、防ぐことができたであろう被害の発生や拡大を招くおそれがあります。

このような情勢を踏まえ、災害に強いまちづくりを実現するため、西地区の防災体制充実強化の基幹となる施設として整備する計画です。

**１　現状**

昭和５３年に建設された消防署日新出張所は、築３８年が経過しております。平成７年１月１７日に発生した阪神・淡路大震災を教訓に、耐震診断を実施した結果、「震度６強から震度７の大地震で、倒壊または崩壊の危険性がある」と判断され、消防施設としての耐震性能を有していない状況です。消防本部では、耐震改修工事、建替工事又は新築移転工事等の検討を行い、現在地と同等の利便性や敷地面積が必要なことから、消防本部としては現在地での建替を行います。

**２　新庁舎の基本構想**

（１）利便性に優れた庁舎 （ユニバーサルデザイン）　※１

（２）安心、安全な庁舎 （危機管理機能を有し、災害時に強い耐震性能）

（３）将来の変化に対応する拡張性 （女性職員の配置等に対応）

（４）経済性に優れた庁舎 （建物の長寿命化、維持管理の簡素化）

（５）西地区の基幹となる消防施設 （災害発生時の最前線基幹施設）

※１　ユニバーサルデザイン

　あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方

**３　新庁舎概要**

（１） 通常建物の１．５倍の耐震強度を確保

（２） 災害時３日分の消防機能を維持する設備を完備 （水・電気・暖房）

（３） 多様化する災害に対応する車両配備

（消防車両４台　消防団車両１台　救急車１台　普通車１台）

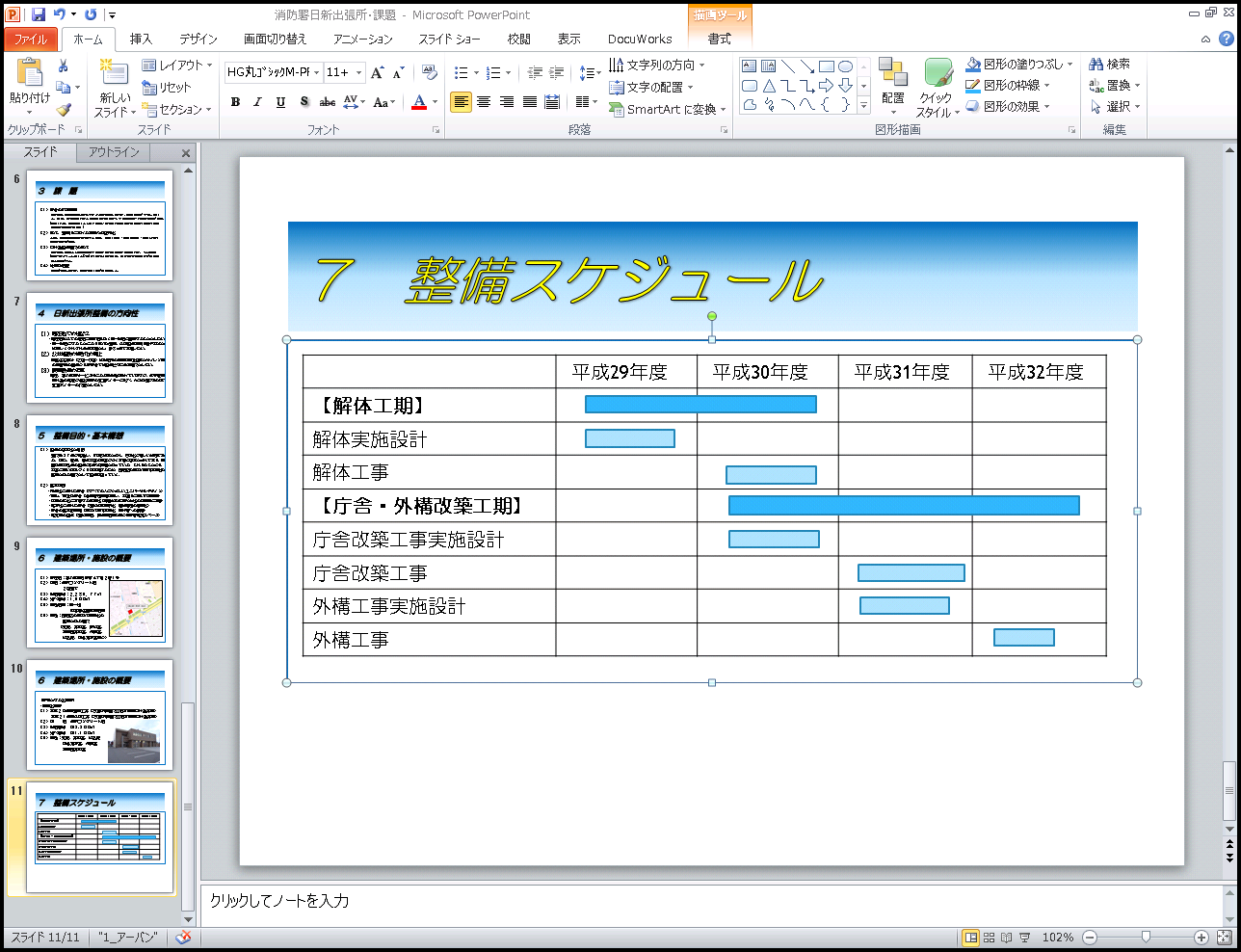
（４） 住民の消防防災意識の高揚と知識の普及を目的とした研修室の設置

**４　スケジュール**

平成３０年度　解体工事、改築工事実施設計、消防隊等の仮配置

平成３１年度　改築工事、年度末暫定運用開始

平成３２年度　外構工事、本格運用開始



　※財政状況によりスケジュールが変更となることがあります。

**５　解体工事及び改築工事期間中の災害対応**

（１）現在、日新出張所に配置している「消防隊」を錦岡出張所に配置し、日新出張所の業務や災害対応を行います。

（２）現在、日新出張所に配置している「救急隊」を新富出張所に配置し、日新出張所の業務や災害対応を行います。

